

「沖縄独特のバリアフリー」

240618

車いすトラベラー 三代達也さんのお話を紹介します。

私は車いすで2017年に9ヶ月間世界一周一人旅を経験し、その後2021年から現在に至るまで沖縄に単身移住しております。移住後出会う沖縄県民のほぼ全員が私にこう言いました。「沖縄ってバリアフリーが進んでいないから大変でしょう？」果たして本当にそうでしょうか。確かに、移動という側面ではなかなか難しいです。モノレールが一部都市には走っていますが、それ以外にバリアフリー対応バスも満足に整っていない沖縄では、自家用車を運転できない車いすユーザーの移動の自由度はかなり下がると感じました。では、飲食店などではどうでしょう。関東に住んでいる時、店員さんに「車いすで入れますか」と聞くと、「うちは段差があるので車いすは難しいですね」とバッサリ断られてしまうことが多々ありました。しかし、沖縄は違いました。移住してから二年たちますが、入店を拒否されたことはただの一度もありません。関東にいた時の決定的な違いに驚きました。一見車いすで入るのが難しそうなお店でも、まず一声かけてくれます。「こういう段差があるお店では普段はどんなふうに入っているの?」「私たちは何を手伝ったら良いかな?」受け入れたいという気持ちが最優先。その姿勢に感銘を受けました。おばあさん一人で切り盛りするお店で、力仕事の介助が受けられずに入店できない時もありました。おばあさんは最後までなんとかしようとしてくれて、さらには「ごめんね。入れてあげられなくて」と謝ることまでしてくれました。そこで私はこう答えました。「嬉しかったから次は友だちを連れてまた来るね」そう言って気持ちよく店を後にしました。同じ「入れない」でも、この差はとても大きいのです。ふと世界一周の旅をした時を思い出しました。世界の過酷なバリアと戦う日々、いつも私を助けてくれたのは外国人の温かい心でした。確かに目に見える設備のバリアフリー化は開発が必要な部分もあります。でもそれ以外に必要なものを沖縄で学びました。沖縄には「ゆいまーる」という言葉があります。「ゆい」は人を結ぶ、「まーる」は循環を示す「まわる」。人が困っているときは私が助け、私が困っているときは助けてほしい。沖縄で育った人たちに根付いている目に見えない「ゆいまーる」の心こそが、何よりも大切なバリアフリーだと思います。あなたの普段の生活はどうでしょうか? シンプルに助け合いが生まれていますか? 今日この瞬間から困っている人に一声かけてみてはいかがでしょうか。あなたの勇気は、日本という国をよりよくする一歩になると思います。 (車いすトラベラー 三代達也)